

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	88人	算数	88人	理科	89人
第5学年	国語	72人	算数	72人	理科	72人

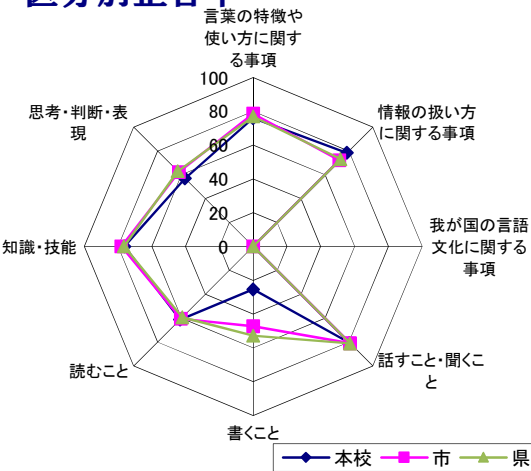
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.0	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	78.4	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	80.7	81.0	81.1
	書くこと	25.3	47.2	52.8
	読むこと	61.2	60.5	59.3
観点	知識・技能	76.3	78.0	76.5
	思考・判断・表現	57.1	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

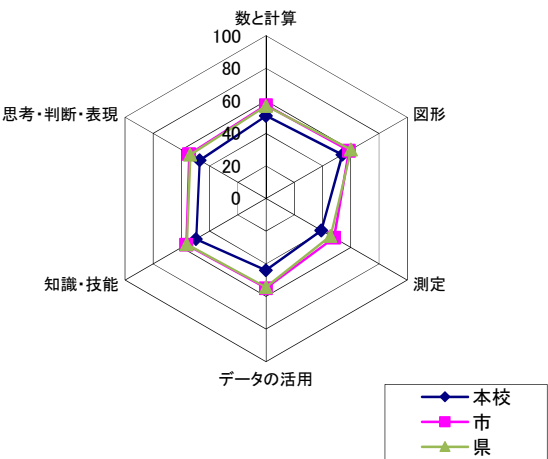
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●領域の平均正答率は76.0%で、市の平均より2.6ポイント低い。 ○ローマ字で表記されたものを正しく読めるかをみる設問では正答率は、78.4%で市の平均を1.5ポイント上回っている。 ●漢字を正しく読む設問では、全ての設問において市の平均を下回っている。	・漢字の学習や練習において、正しい読み方が分かるように、漢字練習の際に読みを繰り返し確認したり、該当の漢字を使った知っている熟語を書き出したりする活動を取り入れる。 ・引き続き、パソコンを活用しローマ字入力の練習をするなど、楽しみながら学習を進めていく。
情報の扱い方にに関する事項	○領域の正答率は78.4%で、市の平均より6.2ポイント高い。 ○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる設問の正答率では、正答率は78.4%で、市の平均を6.2ポイント上回っている。	・国語辞典を使う機会を意図的に増やすことで、多くの言葉に触れられるようにする。 ・多義語や同音異義語等複数の意味をもつ言葉については、日常生活の事象と結びつけることでイメージをもたせながら、意味の違いを捉えさせる。
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は80.7%で、市の平均より0.3ポイント低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかを見る設問の正答率は93.2%で、市の平均を1.9ポイント上回っている。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えをまとめることができるかどうかを見る設問の正答率は70.5%で、市の平均を0.4ポイント下回っている。	・互いの意見の共通点や相違点に着目して聞きながら、自分の意見をまとめ、理由を明らかにして述べるができるように、聞くときのポイントを示すなど、話し合い活動を充実させる。 ・国語の学習で学んだことを生かして学級活動の話し合いが行えるようにするなど、意識して実践できる場を意図的に設ける。
書くこと	●領域の平均正答率は25.3%で、市の平均より21.9ポイント低い。 ●指定された長さで文章を書くことができるかどうかを見る設問や、自分の考えを明確にして文章を書くことができるかどうかを見る設問の正答率はどちらも26.1%で、市の平均をそれぞれ25.9ポイントと24.7ポイント下回っている。	・日頃から、興味や関心のあるテーマについて書く機会を設けることで、理由や考えたことなどを明確にししながら文章で表現できるよう指導していく。
読むこと	●領域の平均正答率は61.2%で、市の平均より0.7ポイント低い。 ○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えることができるかどうかを見る設問の正答率は79.6%で、市の平均を3.8ポイント上回っている。 ●叙述を基に指示語の内容を捉えることができるかどうかをみる設問の正答率は44.3%で、市の平均を6.2ポイント下回っている。	・書かれている内容や文脈を意識しながら読み、指示語が何を指しているのかを考えさせる活動を増やす。 ・読書の時間を積極的に設けることで、日常的に文章を読む習慣を身に付けさせる。 ・学習活動の中に、指定の文字数や形式で時間内に書く経験を積ませる。

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.8	57.4	56.9
	図形	54.0	58.7	60.1
	測定	39.2	48.1	45.7
	データの活用	43.9	54.9	54.3
観点	知識・技能	49.6	56.6	56.2
	思考・判断・表現	47.1	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

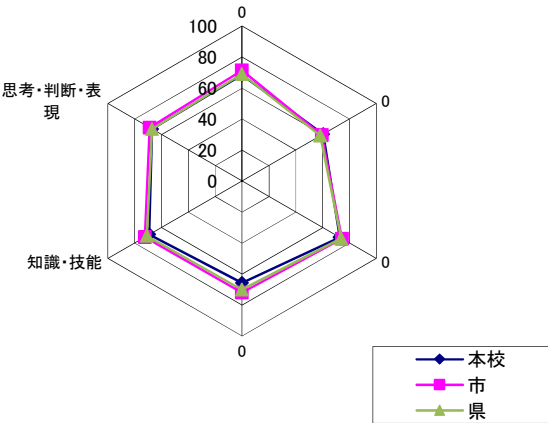
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域の平均正答率は50.8%で、市の平均より6.6ポイント下回っている。 ○小数のしくみや表し方を答える設問では、正答率が90.9%で、市の平均を0.7ポイント上回っている。 ●整数－小数第一位の計算をする設問では、正答率が33%で、市の平均を14.9ポイント下回っている。	・ドリルや学習プリント等を用いて、反復練習を繰り返すことで、小数の計算の基礎・基本の定着を図っていく。 ・基礎的な計算力に加えて、読解力を必要とする文章問題を繰り返し解き、問題に慣れさせることで、習熟を図る。
図形	●領域の平均正答率は、54.0%で、市の平均より4.7ポイント下回っている。 ○球を平面で切った時の正しい切り口の形を選ぶ設問では、正答率が75.0%で、市の平均を5.3ポイント上回っている。 ●正三角形を作図する問題では、正答率が58.0%で、市の平均を17.5ポイント下回っている。	・それぞれの図形の定義をもとに、色々な方法(コンパス、分度器)での作図の練習を繰り返し行い、図形の性質を理解できるようにする。
測定	●領域の平均正答率は、39.2%で、市の平均より8.9ポイント下回っている。 ●重さを、基準量のいくつかで考え、説明する設問では、正答率が36.4%で、市の平均を10.3ポイント下回っている。	・ものの重さについておよその見当をつけたり、重さに合ったばかりを選択して、身のまわりのいろいろなものの重さを測ったりする経験を通して、重さの感覚や正しい測定方法が身に付けられるようにする。 ・問題の場面や構造を整理して捉え、図と関連付けて考える問題を活用して理解を深めていく。
データの活用	●領域の平均正答率は43.9%で、市の平均より11.0ポイント下回っている。 ●二次元の表の合計欄にあてはまる数を答える設問では、正答率が45.5%で、市の平均を15.5ポイント下回っている。	・各欄に当てはまる数字の意味を理解し、表の中の情報を正しく読み取れるようにするために、身の回りの事象について表に表したり、項目が同じいくつかの表を1つの表にまとめたりする経験を繰り返し行い、定着を図っていく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	0	68.5	71.4	69.1
	0	60.4	59.3	58.3
	0	72.7	74.5	73.8
	0	65.7	72.0	70.1
観点	知識・技能	69.1	72.5	70.9
	思考・判断・表現	67.0	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none">●領域の平均正答率は68.5%で、市の平均より2.9ポイント下回っている。○糸電話の糸をつまんだ結果から、震えを止めたときの音の伝わり方の変化について記述する設問においては、正答率が83.2%で、市の平均より3.4ポイント高い。●実験の結果から風の強さともを動かすはたらきの関係について考える設問においては、正答率が62.9%で、市の平均より11.5ポイント低い。	<ul style="list-style-type: none">・今後も実験など体験的な学習を多く取り入れて理科に対する興味・関心を高め、知識の定着を図る。・基礎的な知識を復習する時間を設ける。・扇風機や送風機を実際に使って物を動かすことで、風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなるという関係について理解を深められるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none">○領域の平均正答率は60.4%で、市の平均より1.1ポイント上回っている。○実験結果から同じ体積でも材質の種類によって重さが異なることを答える設問においては、正答率が91.0%で市の平均より2.3ポイント高い。●重さをそろえた異なる材質のおもりの内、最も体積が大きくなるものを答える設問においては、正答率が36%で市の平均より0.6ポイント低い。	<ul style="list-style-type: none">・形を変えても物の重さは変わらないことを理解させるために、物の形の変化を見るのではなく、重さを量った結果、どのような結果かを記録カードなどに書かせる。・それぞれの実験結果からどのようなことが言えるのか、グループや全体で話し合い、分かったことなど、考えを共有させることで理解を深められるようにする。・粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想することへの正答率が低い傾向が見られるので、予想した根拠をノートに書かせたり、グループで話し合ったりする時間を設け、論理的に考える力や、生活体験を基に合理的に予測する力を育てる。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none">●領域の平均正答率は72.7%で、市の平均より1.8ポイント下回っている。○観察した植物の体のつくりの共通点を記述する設問では、正答率は83.2%で、市の平均より1.8ポイント高い。●クモとモンシロチョウの体のつくりなどを比較し、クモが昆虫であるか判断する設問においては、正答率は55.1%で、市の平均より8.9ポイント低い。	<ul style="list-style-type: none">・植物の観察などでは、観察する際に使用する器具の正しい使い方について、実物や視聴覚映像を活用しながら指導する。・生き物の観察をした際に、今までに観察した生き物と比較するなどの観点を明確にし、相違点を見付けながら記録させる。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none">●領域の平均正答率は65.7%で、市の平均より6.3ポイント下回っている。●方位磁針の正しい使い方を選ぶ設問においては、正答率は52.8%と低く、市の平均を12.9ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none">・既習内容の定着を図るために、計画的に学習内容を復習する時間を設ける。・方位磁針や温度計などの正しい使い方について指導し、使用回数を増やすことで、より用具に慣れ親しむことができるようにする。

宇都宮市立上戸祭小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に対しての肯定的回答率は、58.5%で、市の平均より13.3ポイント下回っている。放課後学習する時間の使い方を自分たちで考えさせ、日々計画的に学習に取り組めるよう指導していきたい。

○「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と覚えることがある」という質問に対しての肯定的回答率は、87.6%で、市の平均より3.6ポイント高い。このことから子供たちの知的な好奇心が高いことが分かる。自主学習のやり方を具体的に示し、いろいろなやり方を体験させることで学び方を学ばせ、児童が自ら意欲を持って学習に向かうことができるよう指導していきたい。

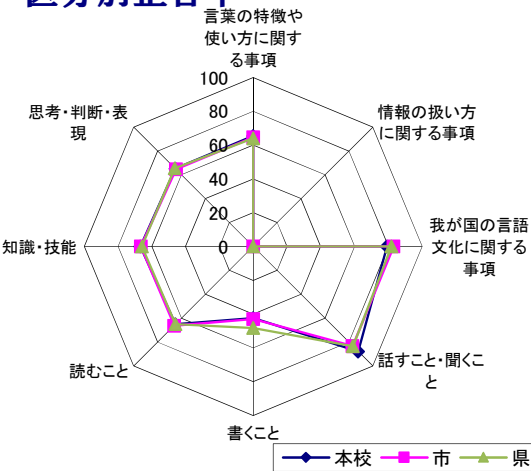
○「学習して身に付けたことは、しょう来的な仕事や生活の中で役に立つと思う」という質問に対しての肯定的回答率は、100%で、市の平均より3.9ポイント高い。授業や様々な体験の中で、将来の目標や夢に向かって努力することへの大切さを伝えていきたい。

○「総合的な学習の時間が好きだ」という質問に対して、肯定的回答率は93.3%で、市の平均より7ポイント高い。地域のことや身の回りの生活で気になる出来事に対して、興味・関心を持って意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。引き続き、地域の人や施設に協力を仰ぎながら、体験的な学習を推進し、児童が楽しく学習に向かえるようにしていきたい。

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.4	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	79.2	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	87.9	83.3	83.4
	書くこと	42.4	42.8	48.2
	読むこと	65.1	66.1	65.1
観点	知識・技能	66.8	66.5	65.9
	思考・判断・表現	65.1	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

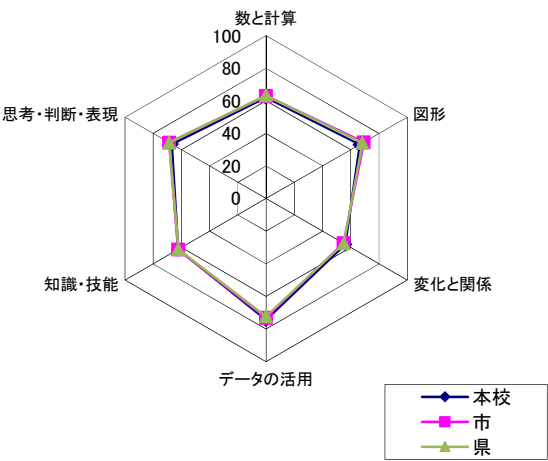
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○領域の平均正答率は65.4%で、市の平均を0.7ポイント上回っている。 ●熟語を正しく書く設問では、無回答が多い設問もあった。 ○漢字を正しく書く設問の送り仮名を交えて書く問題の正答率が、市の平均を5ポイント上回った。 ●熟語の意味を捉えることができるかを問う設問では、正答率が26.4%で、市の平均を6.6ポイント下回った。	・今後も、朝の学習や家庭学習等で基礎的な漢字の反復練習を行っていく。漢字の苦手な児童については、音読を含め、日常から漢字に触れる機会を増やしていく。 ・既習漢字を文章の中で使えるよう指導するとともに、熟語として覚えたり、送り仮名を正しく書いたりできるよう支援していく。
我が国の言語文化にに関する事項	●領域全体の正答率は79.2%で、市の平均を3.9ポイント下回っている。 ●ことわざの使い方を理解し、正しく使って文章を選ぶ設問では、市の平均を3.9ポイント下回っている。	・ことわざや慣用句に関する本やスタンダードダイアリーを活用し、日常的にことわざに触れる機会を設けることで、そのよさに気付かせ、生活の中でも進んで使えるように指導していく。
話すこと・聞くこと	○領域全体の平均正答率は、87.9%で、市の平均を4.6ポイント上回っている。 ○自分の考えを理由を挙げながらまとめる設問では、正答率が94.4%と高く、市の平均を8.6ポイント上回っている。	・今後も、国語以外の教科でも話し合いの場面を意図的に設定し、意図したことが伝わる話し方の工夫を意識できるようにする。 ・司会者を輪番で行わせるなどして、話し合いの要点をまとめる経験をさせる。 ・話し手の伝えたいことや、話の中心を捉えながら話を聞く指導を、今後も継続して行う。
書くこと	●領域全体の平均正答率は、42.4%で、市の平均を0.4ポイント下回っている。 ●文章を2段落構成で書く設問では、正答率が34.7%で、市の平均を3.8ポイント下回っている。 ○調査結果を基に、事実と自分の考えを書く設問では、正答率が48.6%で、市の平均を2.6ポイント上回っている。 ●領域全体を通して、無回答率が22.2%と高い。	・今後も様々な活動場面で、条件に合わせて文章を書く活動を積極的に取り入れていく。 ・書いた文章を友達と読み合う活動を行い、多くの表現に触れる機会を意図的に設ける。
読むこと	●領域全体の平均正答率は、65.1%で、市の平均を1ポイント下回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉える設問では、正答率が76.4%で、市の平均を5.9ポイント上回っている。 ●叙述を基に場面の様子を捉える設問では、正答率が56.9%で、市の平均を7.5ポイント下回っている。	・今後も、読書活動を通して、読む力の育成に努める。 ・段落の内容ごとの、まとまりの捉え方に課題が見られるため、説明文を読み取る時は、中心となる語や文を見付ける指導を繰り返し行う。 ・接続語や指示語に着目し、情報と情報との関係を図に書き表すことで、理解を促していく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.0	63.0	63.3
	図形	66.3	69.2	68.3
	変化と関係	56.0	54.8	55.0
	データの活用	74.3	73.1	72.3
観点	知識・技能	62.3	62.3	62.1
	思考・判断・表現	66.8	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

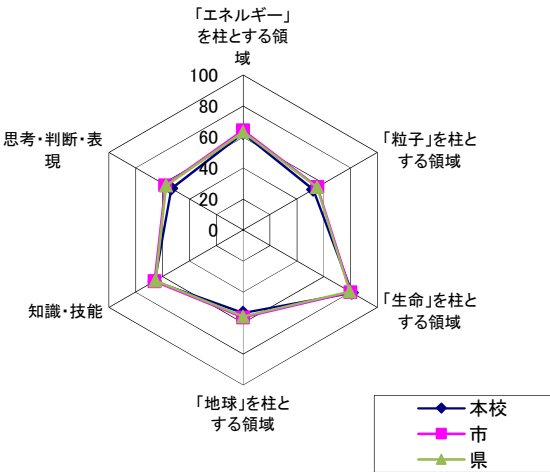
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none">●領域の平均正答率は62.0%で、市の平均を1ポイント下回っている。○計算のきまりを理解し、間違いを説明することができるかどうかをみる設問の正答率が62.5%で、市の平均を5.8ポイント上回っている。●式の意味を正しくとらえることができるかどうかをみる設問の正答率が65.3%で、市の平均を9.4ポイントを下回っている。	<ul style="list-style-type: none">・式の意味を正しく捉えることが不十分であるため、習熟度別学習などの学習形態を工夫し、個に対応した学習活動を取り入れる。また、問題の場面を正しく読み取る学習活動を意図的に取り入れる。
図形	<ul style="list-style-type: none">●領域の平均正答率は66.3%で、市の平均を2.9ポイント下回っている。○立体の構成要素から、立体を見分けることができるかどうかをみる設問の正答率が88.9%で、市の平均を2.8ポイント上回っている。●三角定規の角の大きさを理解し、組み合わせでできた角の大きさを求めることができるかどうかをみる設問の正答率が44.4%で、市の平均を9.5ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none">・三角定規の角の大きさを正しく理解させ、様々な問題に繰り返し取り組ませることで習熟を図る。・平面の縦と横の位置関係を、具体物で確認しながら様々な問題に取り組ませることで習熟を図る。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none">○領域の平均正答率は56.0%で、市の平均を1.2ポイント上回っている。○割合が基準量の何倍かで求められることを理解しているかどうかをみる設問の正答率が44.4%で、市の平均を2.6ポイント上回っている。●表を縦に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることができるかどうかをみる設問の正答率が72.2%で、市の平均を1.4ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none">・表をいろいろな角度から読み取る機会を増やし、関係性に気付かせられるようにする。
データの活用	<ul style="list-style-type: none">○領域の平均正答率は74.3%で、市の平均を1.2ポイント上回っている。○二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる設問の正答率が77.8%で、市の平均を3.5ポイント上回っている。●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取ることができるかどうかをみる設問の正答率が63.9%で、市の平均を4.8ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none">・理科など他教科との関連を図り、グラフから様々な情報を正確に読み取れるようにする。・表から伴って変わる2つの数量の関係を把握させるために話し合い活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	62.5	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	52.1	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	81.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	53.5	56.4	55.8
観点	知識・技能	65.9	66.0	65.3
	思考・判断・表現	53.5	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●領域の平均正答率は62.5%で、市の平均より1.8ポイント下回っている。 ○直列つなぎを理解しているかを問う設問では、平均正答率が77.8%で、市の平均より10.5ポイント上回っている。 ●検流計のしくみや、乾電池のつなぎかたを変えた時の電流の向きや大きさについて理解しているかを問う設問では、平均正答率が48.6%で、市の平均より16.9ポイント下回っている。	・「電気のはたらき」を学習する時には、根拠を持って結果を予想しながら実験に取り組めるようにする。また、類題に取り組ませることで、理解を深められるようにする。 ・今後も、実験を通して器具の操作や検証の時間を十分に確保し、事象の理解に繋げられるようにする。
「粒子」を柱とする領域	●領域の平均正答率は52.1%で、市の平均より3.3ポイント下回っている。 ○空気と水を温めた時の体積の変化について違いがあるのかを実験結果を基に表現する設問では、平均正答率が73.6%で、市の平均より4.3ポイント上回っている。 ●金属の温まり方について、理解しているかを問う設問では、平均正答率が69.4%で、市の平均より10.8ポイント下回っている。	・今後も、学習した内容を日常生活の中の様々な事象と関連付けて考えることで、理解を深められるように支援していく。 ・理由を文章で記述する力を高めるため、授業において考察やまとめを自分の言葉で書くことを継続していく。その際、言葉の理解にとどまらず、根拠をもって書けるように指導していく。
「生命」を柱とする領域	○領域の平均正答率は81.0%で、市の平均より0.9ポイント上回っている。 ○骨のはたらきについて理解しているかどうかを問う設問では、平均正答率が51.4%で、市の平均より6.9ポイント上回っている。 ●季節ごとの動物の活動について理解しているかどうかを問う設問では、平均正答率が83.3%で市の平均より5.5ポイント下回っている。	・観察したり調べたりした結果を一緒に確認したり、資料映像で活用したりして、共通点や相違点に気付けるよう支援していく。
「地球」を柱とする領域	●領域の平均正答率は53.5%で、市の平均より2.9ポイント下回っている。 ○星の動きについて理解しているかどうかを問う設問では、平均正答率が59.7%で、市の平均より5.1ポイント上回っている。 ●月の位置の変化について理解しているかどうかを問う設問では、平均正答率が58.3%で、市の平均より12.2ポイント下回っている。	・自然事象と時間の関係を模型や資料映像を活用し、理解を深められるようにする。 ・身の回りの事象を理科的用語を用いて説明する機会を繰り返し設ける。

宇都宮市立上戸祭小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に対する肯定的回答率は94.5%で、市の平均を21.3ポイント上回っている。「学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上学習している」と答えた児童は22.2%で、市の平均を6.7ポイント上回っている。今後も、学校で目安としている学習時間(60分)を意識しながら、家庭学習をより充実していけるよう支援していきたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」という質問に対する肯定的回答率は75%で、市の平均より12.9ポイント上回っている。今後もその日の学習内容を振り返る宿題を提示したり、自分の苦手な学習に進んで取り組んだりできるよう、自主学習の仕方を具体的に示しながら支援していく。

○「家の人と将来のことについて話すことがある」という質問に対する肯定的回答率は79.1%で、市の平均を7.4ポイント上回っている。加えて、「家の人と学習について話をしている」という質問に対する肯定的回答率は93%で、市の平均を12.4ポイント上回っている。このことから家庭内で十分なコミュニケーションを図られており、将来に希望を抱いている様子がうかがえる。

○「自分は勉強がよくできるほうだ」という質問に対する肯定的回答率は69.5%で、市の平均を8.1ポイント上回っている。「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」という質問に対する肯定的回答率は91.7%で、市の平均を15.4ポイント上回っている。「自分の行動や発言に自信をもっている」という質問に対する肯定的回答率は80.6%で、市の平均を18.1ポイント上回っている。これらのことから、児童が自信を持って学校生活を送っていることがうかがえる。今後もさらに自己肯定感を高めていけるよう、児童の頑張りを認め、励まし、様々なことに挑戦できる機会を設けていきたい。

宇都宮市立上戸祭小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・書く力の育成 ・自ら考え、交流し、学びを深められる児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠や理由を挙げながら、自分の考えを記述することができるよう、指導に力を入れている。 ・児童が見通しを持って学習したり、自力解決に取り組んだりする意欲を高められるように授業展開や課題設定を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4・5年生ともに、国語の「書くこと」の設問の正答率は、市の平均を下回った。また「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。」と肯定的に回答した児童の割合は、4年生は70%程度だったが、5年生は90%程度となり、学年間で大きな差が生じた。 ・「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と肯定的に回答した児童の割合は、4・5年ともに85%を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的内容の定着率が低い。 ・自分の考えを明確にして文章を書くことに課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着 ・書く力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識の習得を図ることに加えて、指定された条件を用いて文章を書く活動を意図的に取り入れる。 ・調査学年に至るまでの基礎の積み重ねが大切であることを踏まえて日々学習活動に取り組む。 ・それぞれの教科の知識・技能の定着が重要なので、朝の学習や家庭学習等を活用し、反復練習していく。